

京都大学の先生との交流コーナー



今回初めての企画として、お昼の休憩時に京都大学の所長・センター長等と中・高校生が昼食を摂りながら質問や相談を行うコーナーを設けました。

当日参加の時任理事・副学長ならびに所長・センター長等約 20 名の先生が参加し、研究のあれこれや進路にまつわる相談など、中・高校生たちとざっくばらんに話をしました。

参加者からは、「京都大学の先生と交流して、京都大での研究や研究の楽しさを教えていただいた。進路の相談にものっていただき、将来について考えるきっかけになりました」、「研究者の方々を身近に感じられた。いろいろな研究の一つ一つが私たちの世界を良くしてくれているんだと思った」などの感想が寄せられました。



参加者からの感想

- ・ 京大の先生のお話をうかがえてよかった。このような聞く場はないので、貴重な経験になった。今後の進路選択の上で参考になった。
- ・ 京都大学の先生と交流させていただいて、京都大での研究や研究の楽しさを教えていただきました。進路の相談にもものっていただき、将来について考えるきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・ お昼の研究所の先生方とお話できる場では、研究の未来であったり、自分の悩みについての相談であったり、とても益になるお話を聞かせていただき、とても良い時間を過ごせました。
- ・ 運よく中高生のランチ会に家族で参加しました。小・中学生には難しい内容も多かったが、ランチ会でお話できた先生のお話が大変面白く、何かに没頭することの大切さを教えてもらいました。地方に住んでいると、中々こういった交流がないので、敷居を低くした先生方とのランチ会を子供たちに広めてほしい。
- ・ お昼の時間に先生とお話させていただく時間や、講演の先生方の人生のターニングポイントなどを聞いて、研究者の方々を身近に感じられた。いろいろな研究の一つ一つが私たちの世界を良くしてくれているんだと思った。
- ・ お昼の時間にお話させていただきました先生に非常に感銘を受けました。私も京都大学医学部医学科に合格そして研究者となるべく奮闘してまいります。ありがとうございました。
- ・ 昼食時の先生との交流がとても為になりました。もう少し長く時間をとっていただけたら嬉しいです。

お昼ご飯を食べながら
京都大学の先生とお話しませんか？

京都大学の先生との交流コーナー



中学生・高校生の皆様へ

お昼休憩時間（11:40～13:00）に、京都大学の先生とお話する席を設けました。
 研究のあれこれや進路にまつわること相談など、お昼ご飯のときにざくざくばらんにお話しませんか。
予約不要・無料です。お弁当などをご持参の上、ぜひお立ち寄りください！

会場：3F オープンスタジオ
 ※2階受付側の階段よりお越しください

時間：11:40～13:00

オープンスタジオ内では
 毎時15分おきでランチ
 が食べられます。





3階地図

※2階受付側の階段よりお越しください

参加予定の先生たち

◆京都大学の研究所・研究センターの先生が参加します。
 また、日本課題の先生にもえるチャンスも！
 興味のある分野の先生の席の傍にお越しください！

- ① 研究分野
- ② 主な研究テーマ



**辻井 敬司 研究連携基盤長
化学研究所 教授**

① ナノテク・材料、機能材料、高分子設計
 ② 高分子材料設計、精密重合、表面改質



岩城 卓史 化学研究所長

① ナノテク・材料、高分子工学
 ② 植物分子生物学、主に細胞分化制御、細胞形態形成、リン脂質シグナルなど



原 直人 社会 日本史

② 日本近世史、幕末期の畿内社会、飯山社会の研究



森井 孝 エネルギー理工学研究所長

① ナノテク・材料、生物分子化学
 ② 酵素系1分子サブナノスケールの空間に設置された有機物の化学反応が細胞の代謝反応として高度化に進行する「分子コンピュート」を模倣し、細胞の外でリーディングモーターエネルギーの利用ができる人工代謝システムを研究しています。

青山 卓史 化学研究所長

① ライフサイエンス、分子生物学
 ② 植物分子生物学、主に細胞分化制御、細胞形態形成、リン脂質シグナルなど

岩城 卓史 化学研究所長

① ナノテク・材料、高分子工学
 ② 植物分子生物学、主に細胞分化制御、細胞形態形成、リン脂質シグナルなど

河本 宏 医生物学研究所長

① ライフサイエンス、免疫学
 ② 免疫系における系列決定過程の研究／
 腸菌に移行する細菌駆逐因子
 腸管内T細胞増殖分化
 腸上皮細胞の分化過程／
 臨床応用を目指した免疫関連のアプリオリ

森井 孝 エネルギー理工学研究所長

① ナノテク・材料、生物分子化学
 ② 酵素系1分子サブナノスケールの空間に設置された有機物の化学反応が細胞の代謝反応として高度化に進行する「分子コンピュート」を模倣し、細胞の外でリーディングモーターエネルギーの利用ができる人工代謝システムを研究しています。

※都合により参加できない場合があります。また、時間により存在していない場合もあります。

最上にもご覧ください

山本 衛 生 産 創 造 研 究 所 長
フロンティア(工学・情報) / 理工学博士工
学の博士の技術(機械・電気電子・化学工
学)。計測工学/材料科学。大気環境科
学、宇宙航空科学。
①赤外線カメラを用いた遠隔測定・大気環
境の研究、電磁気インテグリティの研究/
②衛星観測データ、ドローン等の活用による災害
状況の研究 / ③大気環境リサーチシステムと
大気質計測法の開発、Dロケットや衛星バ
ックエンド搭載による地球環境データの取得

青木 慎也 基礎物理学研究所 長
①物理学一般：素粒子、原子核、
宇宙論、宇宙物理に関する理論
②手鏡子、手鏡子物理に関する理論
③手鏡子QEDおよびリオン開閉/
④プロトン線による放射線効果研究/
— 一般相対性理論における保存量

小野 眞 数理解析研究所 長
①自然科学一般：数値解析学、幾何学
②symplectic多様体への正則写像の理論
および Floor 理論を研究

三澤 毅 複合分子ナノ科学研究所 所長
①原子イオン源、原子イオン炉 / 新型原子炉、
加速器利用「自在」な研究
②放射能汚染の「見える化」技術の開発とその実用
化 / 放射性廃棄物の深層浸透処理の開発
(松本深志高誠 卒業)

井上 治久 IP5細胞研究所 教授
①ライプサイス、変異生物学、遺伝進化学
②SOS細胞系、両側神経 / 治療法研究から
臨床試験まで / Dis1 to Bcl2転写抑制因子の関与
から神経調節 / 治療法研究 / Bclside to
Dis1に利用し、難溶性神経疾患の治療
戦略の確立を目指しています。

伊谷 順一 野生動物研究センター 長
①生態生物学
②野生生物/ボクの社会生態学、ツゴガ
パンジーの生態学、ツゴガ
パンジーの社会生態学の研究及び/
大規模な生態学的手法、定量的な
アプローチを用いた生態学の実験。飼育
野生動物を対象とした生態学と動物行動
科学

中村 克樹 バイオ動植物研究センター 長
①人々・社会、実験心理学、ライフサイ
エンス、神経科学一般、医療薬理、
生理学
②心臓とその他の関係を調べることを目的
としてヒトや他の霊長類を主な対象とし
て研究

中北 英一 訪賓研究所 長
①社会基盤(土木・建築・防災)、工学各
領域に基盤としての専門知識を有する
予測する/政策立案における海
域のはたけとなるもの/政策はどの
ようにつくられるのか? 前掲との
相互作用/京浜東北地区でのように
相違する?

西山 慶彦 経済研究所 長
①人文・社会、経済政治
②都市計画—総合的対象としているが、
特に都市空間の形成過程に着目して少
数のゼミによりメトリック、ランパ
メトリックなど、特定の近似的性質
的研究

黒尾 健 複合原子力科学研究所 長
①ナノテク・材料、金属材料物性、
エネルギー、原子力安全
②核燃料、原子力材料の劣化評価、
高性能耐腐食材料の開発、マテ
リアル・インフォマティクスに
よる材料開発の高度化

八重田 文浩 東南アジア地域研究研究所 長
①文学・社会、金融、フィナンチ
ャル・経済学、東洋史学、経済学、
経営学、東南アジア経済、経済制度
②東南アジア諸国の金融システム(企業
の資金調達、商業銀行、農村金融)/
東南アジアに伝った、ミャンマー、
ラオスの経済制度

宇野 伸一 生態学研究中心 長
①環境・生態学、環境動態学、生産生
態学、生態学、資源学
②水生生態系の中核的な生態学的プロセス
に注目し、微生物生態の構造と機能(物質
循環)の解明を行っている。湖沼、沿岸海
域では、植物フットプリントの進行と結果、
浮遊動物と水生生物の食物網の研究、河川
では、藻類生物圏の研究を行っている。

原田 浩
生命科学研究所利根川流域水圏生物研究センター 長
①ライプサイス/分子生物学、結晶
生物学、免疫応答、免疫学、分子
生物学、植物生物学
②鎌倉湾特異的小環藻におけるがん細胞
の起源形質獲得機構と免疫反応性増強
機構の解明 / 細菌の宿主外寄生(特に
広範囲病原性) 遺伝機構の研究

京都大学研究推進基盤
Kyoto University Research Promotion Association

企画チラシ（表面）

(裏面)